

新宮山彦ぐるーぶ第1984回

行仙宿の巡回整備(お供え・備品補給と水場点検及び

聖護院・南奥駈行支援準備など)

◇実施日：2018年08月05日(日) 快晴

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、畑林清子、

大江加予子、生熊敏男・千満子、上村洋司・和美、

山川治雄、岩本信行、竹中卓治、梶野照雄。 14名。

5月中旬から大日岳、大日如来坐像の台座を改修し、7月22日に安置が終わり、行仙宿巡回整備は約一月半ぶりになる。

午前8時40分に登山口に着くと竹中、山川・岩本の熊野組がすでに待機していた。深仙宿南側の立ち枯れ木伐採に行く予定だった山川さんは、林道の開通が遅れているとのことで、行仙宿巡回行事に参加された。

9時少し前に沖崎・川島車が到着し今日の参加者全員が揃った。



補給路登山口で



モノレール終点で荷担ぐ



行仙宿・玄関掃除

川島さんから本日の作業予定の説明がある。聖護院・南奥駈修

行(9ノ前鬼く(5熊野三山)の際に、9月2日の行仙宿に宿泊のサポート準備と水場の確認が主な作業内容だ。

お茶(500ml×2本)4ケース、ビール1ケース、トイレットへーバ、梅干し等を荷揚げした。荷物が多いので、2回に分けてモノレールで運ぶ。2回目に途中に伸びていたトゲのある木を2本切除、モノレール終点で各自持てる荷物を持って行仙宿小屋へ。連日35℃を越える猛暑は、標高2000m近い山でも容赦なく襲ってくる。第2ベンチまで来ると全身汗びっしょりになった。補給路は木陰が多いのが救いだが、無風状態なので暑さはこたえる。

10時過ぎに行仙宿に到着。玄関横の温度計は29℃を指していた。小屋内は暑く、弱い東風が抜ける小屋前で再度打合せする。聖護院の宿泊者45名を前提に、行仙宿と管理棟内で宿泊して頂く事にして、行仙宿内の備品等はすべて倉庫に移管、当ぐるーぶ支援者が宿泊するテントの確認。お堂の清掃とお供え替え(盆菓子等)、水場点検などを分担して行う。



水場手前の斜木



水場に落ちた腐木



ポリタンクに水汲み

台風12号通過の後なので、水場の確認を濱野、岩本、梶野の3名で行った。水場の少し手前に斜木があり、少し屈まないと通

れない。根元に腐食があり倒れたようだが、先端が別の木に引っかかって止まっている。太さは10cmほどなので鋸で切除できるだろう。水場には台風通過時に落ちてきたと思われる腐木があり、ポリタンクに水を汲んだ後に取り除いた。上部にも腐木が残っていたが、登ることができずそのままにした。次の大雨が降れば落ちてくると思う。

水場点検班が戻る間に、お堂の清掃とお供え替え、行仙宿内の備品等を倉庫に移管、トイレ掃除とペーパー補給、管理棟内保管のテント(4~5人用)は、3張あり(冬用テント・夏用テント・フェルト綿テント)組立てて干した。その結果、夏テントはフライシート無し、フェルト綿テントはペグ無しであった。

11時半過ぎに水場点検班が小屋に戻り、作業を止め昼食。

聖護院・宿泊時の夕食、朝食(おにぎり)、昼食(弁当)は、大江・畑林さん主体に女性陣が手作りして頂けるとのこと、ありがたい。飲料水・食料の荷揚げには、人手が要るので御協力して下さい。窓を開けているが内部は暑い(31℃)、小屋と行者堂の間は少し風が通っているので早々に屋外に避難した。



水場清掃後



昼食懇談中



昼食後、窓や床の水拭き、湯飲みやお椀などの食器確認、ガス炊飯器の確認、トイレの汲み出し等の作業を行う。不要のペット

ボトルやゴミ、不調の炊飯器、飲料水用ポリタンクを登山口にデポ。等、持ちおろす物を集めて13時過ぎに作業終了、全員で写真撮って下山した。



食器の確認



監視カメラ補修



発電機室前の切り株切除



本日の参加者



行者堂下山開始



登山口に下山

行動タイム

補給路登山口9:00→10:05行仙宿10:38→10:50水場11:10→11:35行仙宿(昼食)12:25→作業→行仙宿13:35→14:05補給路登山口(解散)。(記：梶野、写真：梶野・川島)